

1、採点上打ち合わせた事項

(監督会議での報告事項も含む)

① 適用規則の確認

採点規則 2022 年版 変更規則 I

女子体操競技情報 31 号

② 採点指針の確認

③ 新技申請

なし

④ 監督会議の連絡事項

- ・ 段違い平行棒の高さについて
- ・ D スコアに対する質問について

そのローテーションの間に D1 へ口頭で質問をする。意見の相違がある場合は、書面で審判長へ

- ・ 不適切なマグネシウムの使用について
- ・ 平均台表面上への水の使用について
- ・ 器械器具の準備について
- ・ 跳躍や演技を試みない場合について
- ・ コーチの行動について

2、採点上起こった事項とその処理

特になし

3、その他 特記事項・意見・感想等

審判業務全般においては、直前に審判編成の変更をしたが D1 審判を中心にスムーズに採点業務を進めることができ無事競技を終えることができました。開催県の役員の皆様の心配りや手厚いサポートをしていただいたことがスムーズな大会運営に繋がったと思っております。

出場選手は、2022 年版での初めての競技会ということでルールに対応した演技構成に取り組んでいくことが受け取れました。大幅なルールの変更はなかったものの、ダンス系の技の承認要求の変更など、これまでの構成を変更しなければならないところがあったと思います。変更点をよく理解していただき演技構成をしていただきたいと思います。また、2022 年版より演技全体を通して身体の姿勢に関する減点項目の減点幅が大きくなっているため、常に美しい姿勢での実施を心がけて夏の競技会へ向けて練習に励んでいただきたいと思います。

1、採点上打ち合わせた事項

1) 適用規則の確認 2022年版採点規則 変更規則 I 情報 31号までを適用

2) 採点指針の確認

①Dスコアの高い跳躍技の実施

②高さや距離を伴うスピード感のあるダイナミックな跳躍

上記の指針を基に技の大きさだけでなく技の難易度から受ける迫力や雄大性なども加味し、「ダイナミックさに欠ける 0.1/0.3」を有効に使い明確に差をつける。

ただDスコアの高い跳躍を実施しても、危険を伴う実施、技術不良が見られる実施などは8章「一般欠点と減点」の減点項目、10章「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

3) アシスタントの任務（線審）

練習回数の確認

境界線の踏み出し 0.1/0.3 の減点の確認

監督からの再確認の要求に対応できるように、すべての過失は記録を残しておく

2、採点上起こった事項とその処理

特になし

3、その他 特記事項・意見・感想等

2022年版採点規則となりDスコア全体が下がったため、5.0以上の跳躍技を実施した選手が1名のみとなった。また、怪我のために棄権をする選手も数名おり残念であった。早く復帰を願うばかりである。

第2空中局面で後方1回ひねり以上を実施する選手は20名いたが、スピード、迫力のある跳躍ではあっても、姿勢欠点、着地の乱れなどもありEスコアを9.0にのせることが難しかった。採点指針の重要項目である「Dスコアの高い跳躍技」に挑戦しつつ、「膝、つま先の緩みのない美しい姿勢での正確な技の実施」を意識し、今後の練習に取り組み、試合に望んでいただきたい。

1、採点上打ち合わせた事項

(1) 2022年採点指針（情報31号）の確認について

(2) Dスコアの確認手順について

(3) アシスタントの任務の確認について（練習時間及び中断時間の計時方法の確認）

(4) 映像による E スコア採点研修

採点上起こった事項とその処理

特記事項なし

2、その他 特記事項・意見・感想等

今大会では、特に採点指針の一つ目に掲げている「腕の曲がりや膝、つま先の緩みのない美しく伸びた体線での演技」に留意して、採点を行った。難易度の高い演技に挑戦している選手の中にも、け上がりでの膝の緩み、後ろ振り上げ倒立における腕の曲がり・膝の緩み、後方車輪の抜き動作時の膝の曲がり・つま先の緩み、倒立姿勢での腰の曲がりなど、基本技における姿勢欠点が多く、高得点につながらない演技が見受けられた。単に失敗なく演技を遂行することだけに注力するのではなく、基本技の膝、つま先が美しく伸びた姿勢での丁寧な実施を追求し、練習を重ねていただきたい。

また、今大会では回転系の技を複数実施する演技構成が主流であったが、倒立に到達する回転系の技においては腕の曲がりの減点を伴う実施、ひねりを伴う倒立に到達する回転系の技においてはひねりの完了角度 0.3 又は 0.5 の減点を伴う実施、空中局面を伴う回転系の技では高さ不足・回転不足の減点を伴う実施が数多く見受けられた。これらは、回転系の技における振幅が小さいことに起因する実施減点であると考えられる。今後、回転系の技をつなげて C V を獲得したり、空中局面を伴う高難度の技を複数組み入れたりするなど、高い D スコアを目指すにあたり、回転系の技の振幅が大きく、バーのしなりを最大限に利用した発展性のある技の習得に取り組んでいただきたい。

C2 種目 平均台

氏名 阿部恵子

1、採点上打ち合わせた事項

採点指針の確認(情報 31 号)

採点上の重要項目を踏まえたうえで平均台の指針に沿った演技を評価すること、指針にそぐわない演技には採点規則集第 8 章「一般欠点と減点表」、第 12 章「芸術性と構成の減点」「種目特有な実施減点」そして変更規則 I で追加されている減点項目に則り減点を行い、よい演技とそうでないものとの差を E スコアで明確にすることを確認した。

また、アシスタント(計時)の任務内容(練習時間の管理、演技時間・中断時間の計測について、質問に備え過失はすべて記録に残す)の確認を行った。

2、採点上起こった事項とその処理

特になし

3、その他 特記事項・意見・感想等

今大会は2022年版の規則を初めて適用した全国大会でした。ルールは改訂されましたが、これまで日本の女子が重要視してきた「美しい姿勢での演技」は引き続き採点上の重要項目としています。そして、『変更規則Ⅰ』では採点規則集第12章「芸術性と構成の減点」に記載の3つの項目の減点幅が広がったため、美しい姿勢の演技と姿勢欠点のある演技に明確な差がつくルールとなりました。

採点を終え振り返りますと指針にもある「立ち姿勢、つま先まで意識された美しい姿勢による芸術的な演技」を意識して演技していた選手は少なかったように感じます。美しい姿勢からなる演技でなければ審判や観衆を魅了する芸術的な演技は生まれません。美しい姿勢での演技は短い時間で習得できるものではありませんので選手の皆さんは常に美しい姿勢を意識し日々の練習に取り組む必要性が大いにあると思われまます。

また、指針では「アクロバット系、ダンス系の技が正確で熟練された演技」についても重要項目としてあげています。ダンス系の技、アクロバット系の技のどちらも正確に技が実施できなければDスコア・Eスコアともに高い得点を獲得することができません。今大会においてもダンス系の技では不正確な実施のため承認要求が満たせず異なる技と判断され、そのことにより同一技の繰り返しとなり構成要求を獲得できないという選手が数名いました。

今後は、実施する技の承認要求が満たされない時はその技がどの技で承認されるのか、構成要求を確実に獲得するためにはどのようにしたら良いのかを選手自身が理解し技を実施する順番など演技構成を再確認して大会に臨んでいただきたいと思ひます。

加えて、「構成の減点」価値のない開始技、不十分な平均台の使用(横向きの動きに欠ける・胴の一部が台に接する平均台に近い動き/技の組み合わせがない)、「種目特有な実施減点」過度な準備動作(調整・ダンス系の技の前の過度な腕の振り・静止)など、規則を熟知することで減点を回避できる項目で減点となる選手がいたこともお伝えいたします。

これから開催される各都道府県大会やインターハイに向け選手の皆さんは2022年版のルールに対応し、さらに「美しい姿勢による芸術的な演技」「正確で熟練された演技」を常に念頭に置きトレーニングに励みDスコア・Eスコアともに高得点を獲得できるように頑張ってください。

C2 ゆか

D1 審判員 高橋洋子

1. 採点上打ち合わせた事項

(1) 採点指針の確認

体操競技情報31号に記載されているゆかの採点指針4項目を確認し、ゆかの演技に何が求められるのかを理解したうえで演技全体の理想像を持ち、指針に沿った演技と

そうでない演技との差を E スコアにて明確に表すことを確認した。特に立ち姿勢が悪い、膝が伸びない、足がゆかから離れた時につま先を伸ばす意識ができていない演技に対しては変更規則 I で減点幅を大きくしている芸術性と構成の減点「身体の姿勢が悪い-0.10/0.30」「つま先が伸びない/足が緩む/足が内向き-0.10/0.30」の減点項目に則り厳密に減点することを確認した。

(2) アシスタントの任務の確認

計時・線審の任務内容を確認し、コーチから減点の再確認の要求があった際に速やかに対応できるよう、過失はすべて記録しておくことを確認した。

2. 採点上起こった事項とその処理

特になし

3. その他特記事項・意見・感想等

採点規則 2022 年版を適用する最初の競技会となりましたが、今大会ゆかの演技を行ったすべての選手が 2017 年版からの変更点をしっかりと把握し、新ルールに対応した演技構成を組んでいたように思います。昨シーズンから演技構成を組み直し、新たな構成に挑戦した選手も多かったのではないかと思います。今後の大会に向けてはアクロバット系の技やダンス系の技をより正確に欠点のない実施を目指すこと、そして採点指針で掲げているように常に美しい姿勢での芸術的な演技を目指して練習に取り組んでいただきたいと思ひます。

上述したように選手の演技構成で気になる点は特にありませんでしたが、2017 年版からの変更点のうち、多くの選手に関わってくる「輪とび」については不正確な実施が目立っていたように感じます。2022 年版では後ろの足が頭頂部まで上がらなければ「輪とび」として承認されません。今大会では「交差とびから輪」や「片足踏み切り前後開脚とびから輪」を実施した選手のうち半数は後ろの足が頭頂部より低く、異なる技の「交差とび」や「前後開脚とび」として承認しました。選手や指導者のみなさまも輪とびの承認要求の変更については十分理解されていると思いますが、より正確に実施できるよう、常に高い理想像を持って練習に取り組んでいただきたいと思ひます。また、実施によっては輪とびとして承認されない可能性もあることを考慮し、確実に構成要求 1 (2つの異なるダンス系の技の組み合わせでの移動) を満たせるよう、技の組み合わせや実施順には十分注意して演技構成を組んでいただきたいと思ひます。

そしてもう 1 点、2022 年版より、演技全体を通して「身体の姿勢が悪い」「大きさ不十分」「つま先が伸びない/足が緩む/足が内向き」などの身体の姿勢に関する減点項目が芸術性の減点として適用されるようになりました。さらに変更規則ではこの 3 つの項目の減点幅が大きくなっており、姿勢が悪い演技に対してはそれぞれ 0.10 または 0.30 の減点が適

用されます。今大会においては、技以外の部分での姿勢の意識ができていない選手と不十分な選手との差が非常に大きかったように感じます。身体にはりがなく姿勢が悪かったり、膝つま先のラインが美しくない演技では、たとえ振り付けの工夫がされていたり表情まで意識して動いていたとしても芸術的な演技にはつながりません。常に美しい姿勢で立つこと、足がゆかから離れたらつま先を伸ばすこと、膝を伸ばすことなどは体操競技の基本であり、技の実施中はもちろん、技以外のどのような瞬間においても美しい姿勢であるということが体操競技には求められます。技の完成度を高めることや、新しい技を習得することなどは日々の練習の中で時間をかけて取り組んでいることと思いますので、それと同様に美しい姿勢にも重点をおき、今後の大会に向けてトレーニングに励んでいただきたいと思います。